

第4回千葉県国土利用計画地方審議会調査検討部会 議事概要

1 日 時 平成21年7月24日(金) 午前10時から

2 場 所 千葉県議会棟 3階 第1委員会室

3 出席者(委員)

高橋(洋)部会長、大江委員、親泊委員、佐藤委員、宮脇委員、山田(多)委員、
山田(利)委員

4 議事

1) 開 会

2) 報告事項

モニタリング・評価制度の検討スケジュールについて
第3回調査検討部会の論点等について

3) 議 事

モニタリングデータシートについて

第3回調査検討部会での意見等を踏まえ、様式の変更や追加した指標等の内容について事務局から説明を行った。また、前回未提示であった残りの地目(「道路」「河川」等)のモニタリングデータシートについて、事務局から説明を行い、意見交換を行った。

計画評価制度の実施イメージについて

モニタリング制度と計画評価制度の関係など、計画評価制度の実施イメージについて、事務局から説明を行い意見交換を行った。

ゾーン別のモニタリングについて

ゾーン別のモニタリング手法について事務局から2つの案を提示し、意見交換を行った。

4) その他

5) 閉会

6) 主な発言内容 (順不同)

モニタリングデータシートについて

大山千枚田や佐原の伝建地区などのような優良な区域についてはどこでモニターできるのか。どこのシートに入るのか。

(事務局)

そのような指標についてみていくとすれば、ゾーンの中などで検討していくことになると思うが、今回示しているのは全体的な農用地であるとか、景観といった捉え方の中での指標であり、個別の区域のデータについては示していない。

ポイントを絞ったミクロなモニタリングを最初から行っていくことは、おそらく労力的に難しいのでは。

(事務局)

ミクロな部分のモニタリングについては、予算面、人員面から厳しいという考えを持っている。まずは、指標でとらえて、ミクロな部分のモニタリングについては今後の検討課題としたい。

(部会長)

モニタリングや計画評価を実施していく中で、指標自身を見直していくことも当然出てくるものと考えられる。指標については課題として継続的に実施していてももらいたいということをお願いして、とりあえずやってみることが必要ではないか。

農地の保全や利活用にかかわるものとして、農地・水・環境保全向上対策事業による集落協定締結面積について、件数なども加えてはどうか。

(部会長)

モニタリングのデータシートですべてを網羅することはできない。モニタリングや計画評価の際にはここに出ていないようなデータも使いながら評価していくことになるわけだから、この中に盛り込むものと評価のときに反映させなければいけないものを分けて考えてもよい。

< のうちデータ推移の目標方向に関する意見 >

モニタリングのデータ推移の目標方向の設定が統一されていないところが見受けられるのでもう一度再検討をお願いしたい。地目間で矛盾するような部分もあり、無理にたくさん矢印をつける必要もないのではないか。

制度的に決まっている指標であまり動きのないもの、例えば特別用途地区、風致地区、自然環境保全地域、自然公園などはモニタリングの指標としてどうなのかという気がする。

経営耕地面積や農業従事者数は上向きになっており、気持的には理解できるが、実際としては減少傾向にあるわけで水平ぐらいでもよいのでは。

(部会長)

はっきりと矢印の方向が示せるものはよいが、それ以外は無理に上向き、下向きとしなくてもよいのでは。また、グラフのメモリのとり方によって、動きの見え方が違ってくるので、その辺はわかりやすくなるようお願いしたい。

風致地区について、指標としてどうかという意見があったが、指標に加えた意図としては、環境に配慮したまちづくりを推進していかなければならないと考えられる中で、また、全国的に風致地区が増加している中でむしろ横ばいでは困るということで取り上げた指標である。単純に横ばいだから削除するというものではないという点を認識してほしい。

目標の方向性で人によって価値観の違うものは、矢印をはずしてもよいのではないか。

(部会長)

矢印の向きについても、違うということになればその時点で記述を変えればよいのではないか。

計画評価制度の実施イメージについて

例えばある指標のデータに増減が生じている場合に、いくつかの指標を関連付けて行うデータの解釈については、データシートの中で行っていくのか、計画評価として行っていくのか

(事務局)

モニタリングの中では、各指標の傾向、トレンドを把握し、複数の指標を横串に見ていくような作業については、実際に行っている施策や県民の意見なども踏まえながら計画評価の中で実施していきたいと考えている。

評価を行う際の原因分析は県の方で行うのか。

(事務局)

基本的には各課の方に状況を聞いたりしながら(県の方で)整理していきたいと考えている。

ゾーン別のモニタリングについて

2案のゾーンごとに見るという考え方は悪くないと思うが、例えば耕作放棄地の面積などは南の方だけでなく、都市部でも問題になっているので両方比較できる

ようにしてもらえるとよい。

指標によっては全ゾーンあった方がよいものもあるのではないか。

(事務局)

ある指標については、全ゾーン共通に見ていくような考え方についても検討してみたい。

県民から見ると自分たちの特徴的なゾーンの中で、国土の利用をどのように見ていくのか、というような見方もあり、2案の方向でモニタリングを行っていくのがよいと思う。

5年後の評価を行う際には、4つとか3つの指標に限定されてしまうと厳しい感じがする。できる限り共通で多くの項目について比較できるようにしていただくとよい。特に景観の指標なども重要であり、評価のことを考えるとあまり落とさないでほしい。

<全体を通しての意見>

千葉県ならではの良好な景観、歴史的な景観といったようなものをどのように担保していくかが次の課題になってくると思う。

(部会長)

まずは、モニタリングや評価を実施することが大事。その中で県民の意見なども踏まえて変えていっていいと思う。これを加えよう、これは役に立たないというようなことも出てくると思うし、とにかくやってみることに尽きるのではないか。

この数十年というのは産業中心の国土利用が優先されてきた感じがあるので、そうではないということ、文化だとかをきちんと残していくのだという基本をどこかでしっかりとおさえれば、いろいろな指標が生きてくるのだと思うので、そこをはずさないような国土利用にしたい。

全体的に成長路線を引きずっているような感じがする。例えば、人口にしても増えていくことを目標にしているが、生活の質を重視した方向に持っていくのがいいのかなと感じている。

(部会長)

ゾーンについてはもう一度指標について検討してもらおうが、ゾーンごとの特徴的な課題に応じた指標(2案)で行っていく。また、一般的な指標も必要なものは考えてもらおう。今日の議論を踏まえて次回までに、委員の皆さんからコメントがあれば加えてもらい、それも入れて最終案を作成し、国土利用計画地方審議会への中間報告を行う。